



福智町の人権週間をしめくくった「第4回人権ふれあいウォーキング大会」。赤池地区を舞台に、360人の参加者は、地域や町を見つめながら人とふれあい、会話をはずませながら自分と周りの人の大切さを感じました。ここで参加者の姿とともに、貴重な一日を振り返ります。

町をみつめ、ふれあい、心通わせ。

人権週間の最終日となる12月10日、「人権ふれあいウォーキング大会」が赤池地区全域を舞台に開催されました。昭和62年から16年間行われた「人権駅伝大会」からの歴史を持つこの大会。平成14年に駅伝からウォーキングに変わり、今回で4回目を数えます。開催決定からの期間が短かったため、十分周知ができませんでした。それでも約360人が参加。赤池A・B・C、上野A・Bの計5コースから希望のコースを選択し、1チーム4〜6人のメンバーが、手作りの「人権の旗」を先頭に歩きました。設定されたそれぞれのコースは、およそ4km。ワイ・ワイ・ワ広場と上野小学校で開会行事が行われ、赤池地区運動普及推進員「さくらきらら」のみなさんの指導による準備体操で、体をほぐしました。



参加したみなさんは、普段ではゆつくりと歩くことのない道で、季節の移ろいや環境の変化を肌で感じながら歩を進めていました。日ごろ意識しない位置から、また、見たことのない角度から町をながめ、会話をはずませながら自分の存在と周囲の人の大切さ、ふれあいことのすばらしさを実感した様子でした。やがて、およそ90分ほどの道のりを終え、ゴールで待っていたのは、恒例のあったかい猪鍋。閉会行事はワイ・ワイ・ワ広場で行われ、ここに全コースの参加者が集いました。寒風に湯気を立ちこめる2つの大鍋から伝統の郷土料理が振る舞われ、身も心も、そして、体の中まで温まりました。町を見つめ、人とふれあい、心を通わせた「ほのぼのとした1日」が、人権週間をしめくくりました。



私がいて、みんながいる。実感できた4km。

人権ふれあいウォーキング大会



歩き・ふれあい・猪鍋で心もからだもおなかのなかまであったまりました。

昭和62年からの「人権駅伝」以来、毎回参加者の体を温め続けてきた「猪鍋」。今年も田川猟友会の協力で閉会式終了後1000人前の猪汁が振る舞われました。

